

一 小の校内研修(一人1授業)

国語科の学習

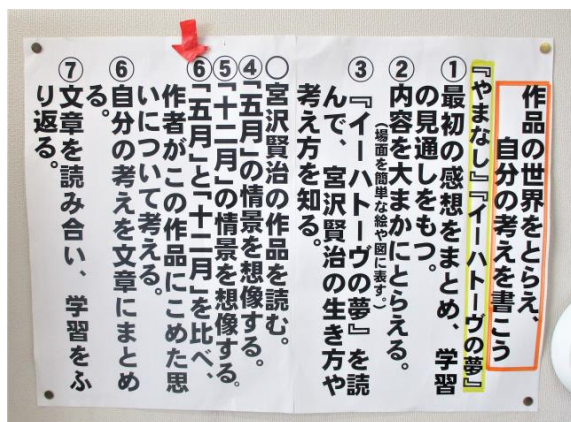
令和2年9月11日(金) 第2校時 6年1組

<単元名> 作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう 「やまなし・イーハトーヴの夢」

<学習について>

この単元は、次のような力を育てることをねらいとしています。

○物語「やまなし」を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。



この学習は8時間予定の学習です。
前半で、作者「宮沢賢治」の人物像をとらえ、その作品から作者の思いを想像し、考える学習です。

前の時間に、五月と十二月の場面を読み、表にまとめました。

出来事の後		出来事	出来事の前	
谷川の様子	かにかの様子	上から来たもの	かにかの様子	谷川の様子
青い水が底に光を反射して、光のあやうらやうな模様を映し出している。水銀のよう。	白いかばの花びらが天井をたたくさへすべってきた。	青光りのきらきらする鉄腕なまけい先がコンパスのようにとがっている。かわせみ(鳥)が魚を上へいきなり飛びこんできた。	続けて五六つあわをはいした。	青い水が底に光を反射して、光のあやうらやうな模様を映し出している。水銀のよう。
	声も出さず、居すくまってしまった。ぐるぐるぐるえんた。こわいよ、お父さん。		よほど大きくなったあわの大きき比へ。月が明るく水がきれいなうへへむらないうへに出ていた。	白いかばの花びらが天井をたたくさへすべってきた。
	三びきはやまなしの後を追った。父「ついてこい」	かわせみ、首をすくめた。三びきはやまなしの後を追った。父「ついてこい」	よほど大きくなったあわの大きき比へ。月が明るく水がきれいなうへへむらないうへに出ていた。	白いかばの花びらが天井をたたくさへすべってきた。
	月明かりの水の中、やまなしのうへへおいていはい。三つのかげ法師やまなしのうへへおいていはい。天井の波、青いほのお、金剛石の粉、月光のしじも、ちか集まった。		よほど大きくなったあわの大きき比へ。月が明るく水がきれいなうへへむらないうへに出ていた。	白いかばの花びらが天井をたたくさへすべってきた。

活動1 五月と十二月の違いを見つけてワークシートに書き出す。



今日の学習は、五月と十二月を比べることを通して、作者が作品にこめた思いについて自分の考えをもつことをねらいとしています。

それぞれの児童が、教科書やワークシートを読み返し、手がかりとなる言葉を見つけ、ワークシートにまとめていきました。



児童が見つけた言葉を発表し、教師がそれを黒板にまとめていきました。そして、その言からイメージでることについて話し合いました。

その後、「やまなし」という題名について、話し合いました。

十二月にしか登場しない「やまなし」を題名にしたのはなぜでしょうか？

これは、確かに不思議であり、作者の意図を考えるよい手がかりとなります。児童もこのことに関心を高めていました。

活動2 作者が作品に込めた思いについて、自分の考えを書く。



ワークシートや教科書の記述を再び読み返し、真剣に考えていました。

児童の考えの一例です。自分なりの解釈をしっかりと書いています。

